

第3回 港湾ロジスティクスワーキンググループ 議事要旨

日時：令和8年4月15日（水）16：00～17：45

場所：中央合同庁舎3号館4階幹部会議室

1. 港湾ロジスティクス分野の官民投資ロードマップについてワーキンググループとしてのとりまとめを行うとともに、港湾ロジスティクスの強化に向けた施策案について確認を行ったうえで、意見交換を行った。

2. 意見交換では、委員から、以下のような意見があった。

【港湾ロジスティクスの政策の打ち出し方、対象について】

- ・港湾荷役機械、サイバーポート、次世代型倉庫という港湾ロジスティクスの一つのパッケージとして成長戦略に位置づけるというところをもう少し強調しても良いのではないか。
- ・国際基幹航路、大規模コンテナターミナル、一体利用など、戦略港湾を優先的にやるように見受けられるものもある一方、港湾荷役機械の自動化・遠隔操作化等は今後日本全国に展開するという記載もある。取組にあたり優先順位があるということであればはっきり整理した方が良い。

【国際競争力の強化について】

- ・日本にとって港湾は国内の経済活動と国際的な経済活動の接点であるということがとても重要な意味を持つ。
- ・日本の港湾が国際競争力を持って国際的に選ばれる港湾でなければならぬ。そのための大きな課題が、港湾の効率性をどれだけ高めていくかであり、その一つが港湾のDX化である。
- ・DX化においてはサイバーセキュリティという最も重要な課題があり、そのような意味で、国際競争力の強化とサイバーセキュリティの問題は密接に関連している。
- ・国際競争力の強化と言ったときに、何をもちいて国際競争力の強化というのか。選ばれる港という意味での国際競争力と、海

外に展開し、売っていくものという国際競争力とを整理すると、何をしようとしているのかというのが分かりやすくなると思う。

【港湾ロジスティクスを支える担い手の確保・育成について】

- ・自動化やIT化の進展に伴い、今後必要とされる人材像やスキルが大きく急速に変わっていく。今後どのようなスキルが必要になるかを見定めながら、リスキリングやセキュリティ・ITの強化策を講じるなど、人材育成に係る対応を先手で行っていくことが必要。
- ・自動化・遠隔操作化を推進できる、企画・設計や運用を考えることができる人の確保・育成が必要。
- ・下支えする人材育成、供給が全ての分野において不可欠であり、それを誰がやるのか、どうやってやるのかを具体的に詰める必要。
- ・女性、高齢者等も働きやすいという言葉について、例えば高齢者については、既にスキルを持った方が引き続きこの仕事を続けていただけるような働きやすい環境という意味が伝わるような書きぶりにしても良いのではないか。
- ・港湾労働者の安全性向上や労働環境改善への寄与という観点からは、特に人手が必要だと言われている本船荷役作業におけるコンテナの固縛作業の効率化や、荷役機械のメンテナンスの支援、異常検知といった技術の導入も考えられる。

【次世代型倉庫について】

- ・陸と海の接点という観点では、今回の港湾ロジスティクスの官民投資ロードマップにおいて、倉庫が入ったということは非常に重要。倉庫についても効率性が重要で、その意味では、単なる物を置くための倉庫ではなく、新しい機能を持つような方向に強化していかなければならない。

【コンテナターミナルの生産性向上について】

- ・コンテナターミナルの生産性向上では、港湾荷役機械の位置

情報やカメラから得られる画像情報、コンテナの荷役履歴といった様々な情報をできるだけ積極的に収集して、それをAIやデジタルツイン等の技術を活用して分析、活用していくことが必要。

- ・ 自動化荷役機械はターミナルオペレーションシステムとの相互通信やECSと呼ばれる制御システムと通信をしており、そのシステムの高度化や、自動化荷役機械の導入に伴うエンジニアの養成といった観点が必要。
- ・ 港湾の効率化を考えるとときに、一つ一つの技術が全体としてどのようにコーディネートされるのかを考えなければならない。陸上輸送あるいは陸上での経済活動も全て包括的に含んだ、総体としてのシームレスなDX化が必要なのではないか。

【大規模コンテナターミナルの計画について】

- ・ 大規模コンテナターミナルの計画に関しては、コンテナターミナルの荷役シミュレーションを行うことによってコンテナターミナルの計画の効率性やボトルネック等を事前に定量的に評価することができる。

【カーボンニュートラルの取組について】

- ・ カーボンニュートラルの実現に当たって、一つ課題になっているのが係留中の船舶への陸上電力の供給である。カーボンニュートラルポートの認証制度をうまく活用するなど、陸電供給を日本の港でもスムーズに行える工夫を検討いただきたい。
- ・ 水素等の受入環境の整備について、起点となる大きな港の整備が必要であるが、そこから全国にどういう形でこの水素、新エネルギーを運搬するかという視点も必要になるのではないか。日本の国内でのネットワークづくり、そこに地方の港湾の役割をどう位置づけるかという視点があっても良いのではないか。